

週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月1日(火)

《幼子のような者》

伊香保温泉で行われた司祭の黙想会に参加してきました。テーマは、「どのような生き方をすれば、霊的な喜びにあふれ、司祭らしく生きることができるか」でした。

司祭たちも人間ですから、お互いに気があわないこともあります。しかし、そのようなテーマで一緒に話し合うことにより、その人が何を悩み、何を望んでいるのかが分かります。そして、その人をもっと深く理解することができる体験をしました。一泊二日の短い黙想会でしたが、教会が健康になるためには、何よりも司祭たちの交わりが上手に、豊かに行われなければならないと気付きました。お互いに、良い面も悪い面もあります。良い面を持っている人を見れば、見習おうとする刺激を与えられるし、自分に伝えたいと思う良い面があれば、それを自然に相手にも感じさせられる、そのような機会になったと思います。司祭だけでなく、信者にもみんなこのような交わりが必要だと思いました。

しかし、交わろうとするときには、いろいろな緊張感が生じます。人と交わると疲れるから避けたい、と思うのが大部分の私たちの気持ちではないでしょうか。しかし、逃げたり避けたりすることは福音的ではないことを、いつも考えなければなりません。

さあ、今日の福音(ルカ 10・21 24)を読んで、子どものときのことを思い出しました。小学校3年生くらいの頃、今の時代とは違い、学校から帰れば遊んでばかりでした。外に出れば、仲間がたくさんいました。遊びも、数え切れないくらいたくさんありました。どの子も、夕食の時間になってお母さんから「食事に戻りなさい」と言われるまでは外で遊んでいました。そんな記憶を皆様も持っていらっしゃると思います。その記憶の中に、近所に住んでいた年の離れたお兄さんがいました。私たちは「お兄ちゃん、お兄ちゃん」と呼んで、仲良く一緒に遊びました。その頃、彼は16歳くらいだったと思います。体も私たちよりずっと大きかったのですが、彼は、みんなが認めている知的障害者でした。私たちが遊んでいると、よくそのお兄さんが来て、仲間に入れて欲しいと頼みました。そして、一緒に遊んでいて、私たちの手が届かないところに物が行ってしまうと、私たちは「お兄ちゃん、あれをとって。」と頼み、彼は喜んでそれをとってくれました。また、柿が実れば、快く木に登って柿をとってくれました。そういう人でした。

たぶん、そのお兄さんの母親の心は辛かったでしょう。知的障害の子どもを持っている親の心として大変だったと思います。今は、彼が生きているのかも分かりません。しかし、今日の福音に「これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。」と書かれています。イエス様は喜びにあふれて、幼子のような者を褒め称えています。この幼子のような者が、彼のような人なのだと思います。

社会的な秤、人間の秤で計れば、知的障害のある人は、「馬鹿」と言われ、不幸な人生を過ごすように見えます。しかし、信仰の目で見たら、私たちの方が羨ましい気持ちで彼らを見なければならないところがあると思います。それは、彼らには罪を起こす機会もないし、誘われても罪を犯すことはできない、ということです。罪のない状態でしばらくの間この世にいて、神様の所へ行くのです。ある意味では、幸せな、赦しの秘跡のいらぬ、恵まれた人生を送る人々なのかもしれません。

そのような観点でそれらの人々を見ると、納得できなかったいろいろなことが解けるような気がし

ます。罪のない子どもが、ある日突然、事故で死ぬことがあります。そのような時、私はいつもそのお母さんに言います。「たぶん、神様があまりにも愛されて天使に使おうと思い、罪で汚れる前に早めに呼びかけたのでしょうか。」と。正しいことだと思います。そして、知的障害を持つ人は、体と脳の障害のために、誰かにいじめられても、相手を憎むことができません。恨みを感じることもできません。しかし、知恵ある者、自分の判断で何でもできると思っているふつうの私たちは、いつも憎しみや嫉妬、悩み、恨み、そういうことによって、自分を少しずつ殺しているのです。神様からいただいた純真な心をだんだん失っているのです。そういう私たちと比べたら、そのような知的障害のある人々は、ある意味では本当に恵まれた生き方をしているのではないかと思います。

今日の福音のメッセージは、「私たちも本当に純粋な、幼い子のような心で信仰の道を歩まなければ、信仰の味が絶対に分からない。」というイエス様の警告だと思います。

皆様、少なくとも神様の前では、本当に子どものように「私は何もできません。だからあなたが何とかしてください。」と甘えん坊になってもよいと思います。そのような気持ちがなければ、私たちは頭だけで天国にいるような愚かさを見せてしまうのではないのでしょうか。神様はいつも、「私が本当に欲しいのはお前の心だ。」とおっしゃっています。今の心はどのような状態でしょうか。よく考えられる待降節になっていただきたいと思います。

ありがとうございました。